

大里小だより

3月号

令和4年3月16日

卒業おめでとう！ 期待しているよ

明後日、6年生は卒業証書授与式を迎えます。こうした節目に、親としてこれまでの歩みを振り返ると、感慨深いものがあるのではないのでしょうか。



子どもが入学した時に、親として抱いていたはちきれんばかりの期待感、今どうなっていますか。ふくらみ続けている、しぼみつつある、棚上げしてしまっている。この中でNGは「棚上げしてしまっている」です。なぜかという、子どもが期待感を感じ続けられるようにしてほしいと思うからです。期待感をチラ・チラと感じさせてやってください。子どもには元気が出ます、子どもは調子に乗ります。ただ、お子さんの現実合わない大きな期待はダメです。「何言っとんの？」と心に残らないか、「そのとおりにしていかなくちゃ」とプレッシャーにつぶされそうになるかでしょう。

親の期待にも、<この子の状況を見て、修正してきたなあ> <この子に新しい発見があった、新しい期待を追加したなあ> こうした歩みがあったのではないのでしょうか。

学校経営方針の振り返り(学校自己評価)

PTA 総会の時に「令和3年度の大里小学校」という資料を配付しました。そこに記載されていたのが学校経営方針です。その中で重点目標としていたことについて、本年度の学校の取組を振り返ったことをお伝えします。

1. 校内研修の充実、学力と体力の向上について

<わかる授業・共に学ぶ授業のために>

「学習規律チェック」として到達度を、毎月担任がチェックしてきました。卒業時にはすべての項目で到達しているように、次の担任へと到達状況を引き継ぎます。教員も「授業力チェック」として、基本的な指導力を毎月自分でチェックしてきました。若手教員は、ベテラン教員にアドバイスをもらい、日々の授業を大事にすることができました。

また、算数において、全ての学年で少人数教育を実施しました。さらに4年生以上では、児童の希望を聞きながら習熟度に応じたコース別で学習を行いました。一人ひとりの学習状況を捉えて支援することで、学習の理解度や満足度は向上したと考えています。算数に限ったことではありませんが、児童アンケートで「学校の勉強はよく分かります」と答えた割合が90.6%と、高い水準を維持できました。

教員は、「子どもが学び合う授業づくり」をテーマに、研修を積んできました。それとともに、全国学力・学習状況調査の結果から、授業に対する児童の高い満足度が学力へと結びついていなかった反省のもと、「子どもに確かな力をつける授業改革」にも取り組んできました。

児童アンケートでは「学校の勉強は楽しいです」と答えた割合が、昨年の83.5%から今年は89.2%に増えましたが、これはタブレット端末を積極的に使う授業の工夫をしたこともあり、よい影響をもたらしたと考えています。また、2月に実施した「みえスタディチェック(5年生)」では、3教科すべて県平均を上回る正答率でしたので、一定の成果は出ていると考えますが、記述式の問題が苦手でしたので、肝心な課題はなお解決されていないことが分かりました。

今後、学び合う授業づくりへと改革していくことが、楽しく、子どもに確かな力をつける授業となっていくと考えています。

<豊かな心を育むために>

11月に学校行事「人権学習交流会」(低学年の部、高学年の部)を開催し、学年に応じて、友だちや家族との関係について見つめ直したこと・話し合ったこと、身近な社会にある人権問題について考え話し合ったことを発表しました。

学習を通して子どもたちが伝えたいことを、子どもたちの言葉で表現することを大切にし、参観してもらった保護者にも受け止めてもらいました。こういう経験を積み重ねることで身につける力に主眼を置いています。保護者から「毎年同じ内容である」との指摘を受け止め、内容についても十分留意していきたいと考えています。

保護者アンケートでは、学校の対応について「学校は、子どもたちの良いところを見つけようとしている」92.1%、「学校は、挨拶の大切さを指導し、思いやりの心を育てている」90.6%、「学校は、助け合うことの大切さを教えている」88.1%という評価をいただきました。

児童アンケートでは「友だちの良いところを見つけようとしている」88.2%、「困っている友だちがいたら、助けている」93.6%と、友だちに対する行動は高い割合でした。一方で「悩みや困ったことを友だちや先生に相談できる」79.8%と、自分自身に対する行動はそれほど高くありませんでした。困っている人を見つけて助けられることはいいことですが、「人に助けを求めている」という安心感を持たせることも大事にしなければいけないと思いました。

<たくましく・自らに挑戦する子であるために>

各教科や学校教育活動の中で、子どもたちの追究する姿勢・挑戦する姿勢を大切にしてきました。そのために、「自己目標を持つこと」を丁寧に指導しました。児童アンケートで、「難しいことでも挑戦するようにしている」89.7%、「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある(高学年)最後まで頑張るようにしている(低学年)」94.6%と、子どもたちの意識は高いです。

また、本年度の全国体力・運動能力調査(5年生)では、主に脚力に関係する種目では全国平均を上回りましたが、上半身を使う種目は全国平均を下回ったことが特徴でした。

2. 組織的な生徒指導の推進、登下校時の安全確保について

地域と連携した生徒指導としては、「公園でマスクをつけないで遊んでいる子がいる」あるいは「登下校時の子どもの様子」について連絡をいただいたことを、学校での指導や家庭での指導に生かしました。学校内での生徒指導体制としては、担当者が問題を取り上げ、あるいは担当者に報告し、その対応策を関係者で考えてきました。今後、より積極的に対応していくために生徒指導委員会を設け、定期的に複数の目で子どもの生活の様子を点検するようにしたいと考えています。

登下校については、教職員が各学期に2回、登下校指導を実施しました。さらに、地域の見守り隊の方々には、毎日各所で安全確認を行っていただきました。年度初めに見守り隊の方々との対面式を行い、子どもたちは地域に守られていることに対して感謝の気持ちを新たにしています。



3. 保護者や関係機関と連携した子どもの支援の推進について

図書館ボランティアには、子どもたちの読書活動の推進を図るため、「読み聞かせ」や「図書館まつり」といったイベントに協力いただきました。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、一部取りやめたり縮小したりしましたが、図書館の模様替えや本の紹介コーナーなどの環境作りも含め、子どもたちは楽しみにし、たいへん喜んでいました。

本年度も教育ファーム事業として、三重大大学の附帯施設農場で農業体験をさせてもらいました。教科の学習や食育、キャリア教育等に結び付けて、子どもたちの学習が発展するようにできました。その他にも、様々なゲストティーチャーに支援していただき、効果がありました。

4. 教職員の総勤務時間の縮減について

本校の時間外労働時間の目標は、月30時間以内（※津市は45時間以上ゼロ）として、本年度スタートしました。毎日、午後6時半までには退勤するという数字です。そのため、午後6時以降は留守電対応とさせていただいておりますことに、感謝申し上げます。教員の事務仕事を補助するために、スクール・サポート・スタッフ(1名)が毎日3時間勤務しています。

その結果、昨年度月45時間を超えていた者は45時間未満になりましたが、30時間を超える者がおり目標達成とはなりません。子どもの前で元気な先生でいられるよう、引き続き働き方改革を進めます。

5. 保護者・地域との持続可能な協力関係の構築について

本年度は、学校行事（※10月に運動会、11月に全校集会）は公開できましたが、「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」期間にかかり、通常の授業を観てもらおう授業参観が実現できないままでした。また、子どもが関わる地域行事でも、9月の敬老会・10月の地区運動会が中止となりました。12月の地区自主防災訓練は実施できましたが、感染症対策のため各地区人数制限があったせいか、児童に参加を呼びかけましたが数名の参加でした。PTA活動も、多く

はできませんでしたが、街頭指導、廃品回収、足形マーク・危険立札の点検、年2回の広報誌の発行などしていただきました。ありがとうございました。

学校運営協議会でいただいたご意見

3月8日、学校運営協議会にて、上記の学校の振り返りを説明し、委員の皆様からご意見をいただきましたので紹介します。



- * 学校が「学び合い」(主体的・対話的で深い学び)ができる授業をめざして、子どもたちどうしが話す機会を増やしているということは分かった。では、現状、子どもたちはどれだけちゃんと対話ができるのかということ、心もとない状況ではないだろうか。学力も大切だが、「自分の思うことを自分の言葉でちゃんと表現してほしい」というのが、保護者の基本的な願いだと思うので、そういう力を学校でつけてやってほしい。
- * さらに、「こうしたい」という自分の思いをしっかり持った子に育ててほしい。それが大きなエネルギーとなって、自分のやりたいことが実を結んでいくことになる。
- * 「転ぶこと」を学ぶことは、しなやかな強い心を育てる。言われたとおりするまじめな子もいいが、ゆとりと遊び心を持って、時には失敗に学ばせることも大事である。
- * 人権学習交流会を参観して、子どもたちの発表に、どれだけ実感が伴っているだろうかと思った。足に障がいのある人の苦労について考えるときには車椅子等を体験してみるなど、学習において子どもたちが体験できる場を設けることを、豊かな心を育てるために大事にしてほしい。
- * 算数の習熟度別コース学習で、早く(共通の)課題ができると暇になってしまうらしいので、別の課題が用意してあったり、自分なりの学習ができるようになっていたりするとありがたい。
- * 体力テストでは、身体の柔軟性が弱いという結果であったが、運動の方法を教え、一定期間継続すれば必ず変わるので、対策をお願いしたい。
- * 総勤務時間縮減のためには、教員の仕事を減らすことを進めてもらいたい。
- * 登下校の様子で、登校班から離れて歩く子、他の班に合流していってしまう子、道いっばいに広がって歩く子たちが見られる。また、集合時刻や遅れたら謝るなどの基本的なルールも守れなくなってきているようなので、子どもたちの安全のために指導してほしい。
(※このことについては、会議の翌日、地区集会がありましたので指導しました。23日に下校指導もします。)
- * 通学路の切れていた防犯灯を交換し、道路わきの草刈りを頼んでしてもらった。地域としてできることを行っている。

いただいたご意見をもとに、4月の学校運営協議会ではいくつかの取組の柱を決め、保護者・地域の協力を得ながら進め、年度末には成果を検証していきたいと考えています。皆様、よろしくお願いたします。